

令和7年度 第2回変更

土地改良事業計画書

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）

地区名：日下部 くさかべ 地区

所在地：山梨県山梨市下井尻地内外

事業主体：山 梨 県

目

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	2
第1節 地 域	2
第2節 地 積	2
第3章 現 況	3
第1節 気象及び海象	3
1. 一般気象	3
2. 特殊気象	4
3. 海 象	4
第2節 土地状況	5
1. 地形・土壌及び侵食の程度	5
2. 土地分類	5
3. 土地利用の状況	6
4. 土地所有の状況	6
第3節 水利状況	7
1. 用水状況	7
2. 排水状況	9
3. 河川状況	11
第4節 道路概況	12
1. 道路概況	12
第5節 地域農業の概況	14
1. 産業別就業人口	14
2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数	15
3. 動力農機具及び主要家畜頭数	16
4. 主要作物作付状況	17
5. 農業の動向	18
第6節 地域環境の概況	19

次

第4章 一般計画	20
第1節 事業計画の要旨	20
1. 要 旨	20
2. 事業別面積	20
第2節 営農計画及び土地利用計画	21
1. 営農計画の概要	21
2. 土地利用区分	21
3. 作付方式	22
4. 生産計画	23
5. 労働改善計画	24
6. 級地別土地利用区分	24
7. 土地配分計画	24
第3節 用水計画	25
第4節 排水計画	25
第5節 道路計画	30
1. 道路及び索道	30
2. 路線配置図	31
第6節 農用地造成計画	32
第7節 洪水調節計画	32
第8節 干拓計画	32
第9節 農用地整備計画	32
1. 区画計画	32
2. 暗渠排水	33
3. 客 土	33
4. 農地保全	33
第10節 老朽ため池改修計画	33
第5章 主要工事計画	34
第1節 用水施設	34
第2節 排水施設	34

第3節	道路及び索道	35
1.	道路	35
2.	索道	35
第4節	農用地造成	35
第5節	洪水調節施設	36
第6節	干拓施設	36
第7節	農用地整備施設	36
1.	区画整理	36
2.	暗渠排水	36
3.	客土	36
4.	除礫	36
5.	農用地保全	36
第8節	老朽ため池改修施設	36
第6章	附帯工事計画	37
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	37
第8章	環境との調和への配慮	38
第9章	換地計画の概要	40
第1節	換地計画を作成する上での基本的考え方	40
第2節	換地区の設定	40
1.	換地区の名称、所在、面積	40
2.	換地区を設定する理由	40
第3節	換地計画樹立の基本方針	41
1.	従前の土地の地積の基準	41
2.	用途別予定地積	42
3.	農用地集団化の方針	43
4.	非農用地の換地方法	44

第4節	土地の評価及び清算の方法	44
1.	評価の方法	44
2.	清算の方法	44
第5節	換地計画樹立の年度計画	45
第6節	換地処分 of 時期に関する特則	45
第10章	事業費の総額及び内訳	46
第11章	効 用	47
第12章	関連する事業	47
第13章	現況・計画図面	47

第1章 目 的

「日下部」地区は、甲府盆地東部、峡東地域の北部に位置し、笛吹川に接した平坦地において、ももとぶどうを中心とした果樹園地帯が広がっている。首都圏から100km圏内、都心から90分という交通の利便性を有し、中央自動車道勝沼インターチェンジや国道140号に近く、JR中央線の3駅（塩山・東山梨・山梨市）にもアクセスが良い。

本地域は、平坦で肥沃な土地に恵まれ、山梨県を代表する果樹産地を形成している。もも・ぶどうに代表される樹園地が広がり、近年はかきの生産も盛んになっており、独特の田園景観を形づくっている。しかし、小区画で不整形なほ場や、道路・水路の未整備による作業効率の低さが見受けられる。また、都市計画区域と隣接しているため、農地転用による農地の分散が懸念される。

農地流動化等により効率的な土地利用ができるよう積極的に優良農用地を確保する必要がある。また、この立地条件を活かし、もも、ぶどうを中心に多様なニーズに応えられる観光型農業を地域産業の振興策として位置付け、振興していく計画である。

本事業を導入することによって、集团的土地利用のための農業生産基盤整備（農道・水路・区画整理）を行い、本地区の担い手となる認定農業者への経営規模拡大・農地の集積等を図り、効率的かつ計画的な農地の利用を促進する。さらに、優良な果樹地帯の保全、景観など立地条件を活かした観光型農業の振興など、新たな販路拡大の展開に努めていく。

第2章 地 域 及 び 地 積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
農地整備事業 (畑地帯担い手支援型)	山梨県 山梨市 下井尻

第2節 地 積

(第2表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地 (ha)	野 原 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	市町村名								
農地整備事業 (畑地帯担い手支援型)	山梨市 下井尻			71.4				71.4	
合 計				71.4	—			71.4	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	韮崎観測所	かんがい期間	非かんがい期間	計又は平均	備 考
観測期間	昭和53年～平成26年	5月～9月	10月～4月		
平 均 気 温 (℃)		22.5 ℃	7.1 ℃	14.0 ℃	
降 水 量	平 均 (mm)	139.0 mm	68.5 mm	98.0 mm	
	基準年 (mm)	—	—	—	
降水日数	平 均 (日)	9.9 日	6.2 日	7.7 日	
	基準年 (日)	—	—	—	
根 雪 期 間		—	～	—	
無 霜 期 間		—	—		
最 多 風 向		WS	最大風速 (風向)	33.9m/s (ESE)	最大風速発生年月日 (昭和34年8月14日)

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
甲府地方気象台																
観測期間 昭和53年～令和7年	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量 (mm/day)	224.5	1945.10.6	1/100	230.5	2000.7.10	1/40	223.3	1948.9.16	1/33	222.5	1990.8.10	1/33	213.8	1947.9.15	1/33	
最大時間雨量 (mm/hr)	78.0	2004.8.7	1/52	73.0	1978.7.8	1/52	62.0	2011.7.3	1/23	31.0	1990.9.2	1/21	59.5	2003.8.5	1/17	
最大3日連続雨量 (mm/3day)	311.0	2000.9.4	1/82	306.0	1983.8.18	1/82	290.0	1982.9.13	1/19	259.0	1977.8.19	1/9	235.0	2002.7.12	1/7	
最大連続干天日数 (日)	71.0	1973.11.1 ～1.20	1/98	57.0	1975.12.1 0～2.4	1/62	50.0	1944.12.1 4～2.1	1/54	47.0	1939.12.1 7～2.1	1/36	44.0	1986.1.5～ 2.17	1/31	

3. 海 象

該当なしにつき省略

第2節 土地状況

1. 地形・土壌及び侵食の程度

(1) 地 形

本地区の地形は405.7mを最高に最低で372mとなっており、地形勾配は北から南へ、3°程度の緩やかな勾配となっている。

(第4表-1-1)

地 目	田						畑 ・ 樹園地							受益地標高 (m)		備 考
傾斜区分	1/1000以下	1/1000～1/500	1/500～1/300	1/300～1/100	1/100以上	計	3°以下	3°～8°	8°～10°	10°～15°	15°～20°	20°以上	計	最 高	最 低	
面積 (ha)							71.4						71.4	405.7 m	372.0 m	
比率 (%)							100						100	—	—	

(2) 土 壌

(第4表-1-2)

土壌統（区）名	項 目	土 壤 統 （ 区 ） 区 分 一 覧 表								面積（ha）			備 考	
		土 壤 断 面							堆積様式	母 材	事 業 名			
		色	腐 植	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性					泥炭層・ 黒泥層及び グライ層	農地整備事業（畑地帯担い手支援型）		
						表土 一層	下層土					畑地帯 総合 整備事業		計
							二層	三層						
外城統	黄褐色	含む	含む	—	15	40	—	無	—	—	79.5		79.5	
中城統	灰褐	含む	無	—	17	33	—	無	—	—	19.8		19.8	
計											99.3		99.3	

2. 土地分類 該当なしにつき省略

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村別	耕 地						山 林		採 草 放牧地	原 野	その他	計	備 考
		水 田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶 園	その他の 樹園地	用材林	薪炭林					
農地整備事業 (畑地帯担 い手支援型)	山梨市	ha (4.0) —	ha (40.0) —	ha (—) —	ha (1,086.0) 71.4	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha (1,130.0) 71.4	農業センサス2020
合 計		(4.0) —	(40.0) —	(—) —	(1,086.0) 71.4	(—) —	(—) —	(—) —	(—) —	(—) —	(—) —	(—) —	(1,130.0) 71.4	

上段：山梨市全体
下段：計画区域

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所 有 別 区 分	個人所有	市町村所有	国 所 有	県 所 有		計	備 考
農地整備事業 (畑地帯担 い手支援型)	面 積 (ha)	71.4	—	—	—		71.4	重複除く
	受益者数 (人)	350	—	—	—		350	うち重複(1262)
	筆 数 (筆)	—	—	—	—		—	
	権 利 関 係	—	—	—	—		—	

第3節 水利状況

1. 用水状況 該当無し

(1) 用水系統 該当無し

(2) 用水施設 該当無し

(ア) 取水方法一覧表

事業名	項目	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		20ha以上		10～20ha		10ha以下									
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
農業用排水施設	井堰														
	自然取入口														
	貯水池														
	揚水機														
	その他														
	計														
	合計														

(イ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項目 施設名	箇所	受益面積 (ha)	構造	規模	新設又は更新年月日	改修を必要とする理由	備考
農業用排水施設	井堰							
	自然取入口							
	貯水池							
	揚水機							
	用水路							
	その他							
	計							
	合計							

(3) 用水に対する被害状況 該当無し

(ア) 用水不足による被害状況

事業名	項目	かんがい面積 (ha)	現況必要水量 (千m ³)	不足水量				平均減産量 (t)	平均 維持管理費 (千円)	備考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量				
	系統名			平均 (m ³ /s)	基準年 (m ³ /s)	平均 (m ³ /s)	基準年 (m ³ /s)			
農業用排水施設										
	計									
	合計									

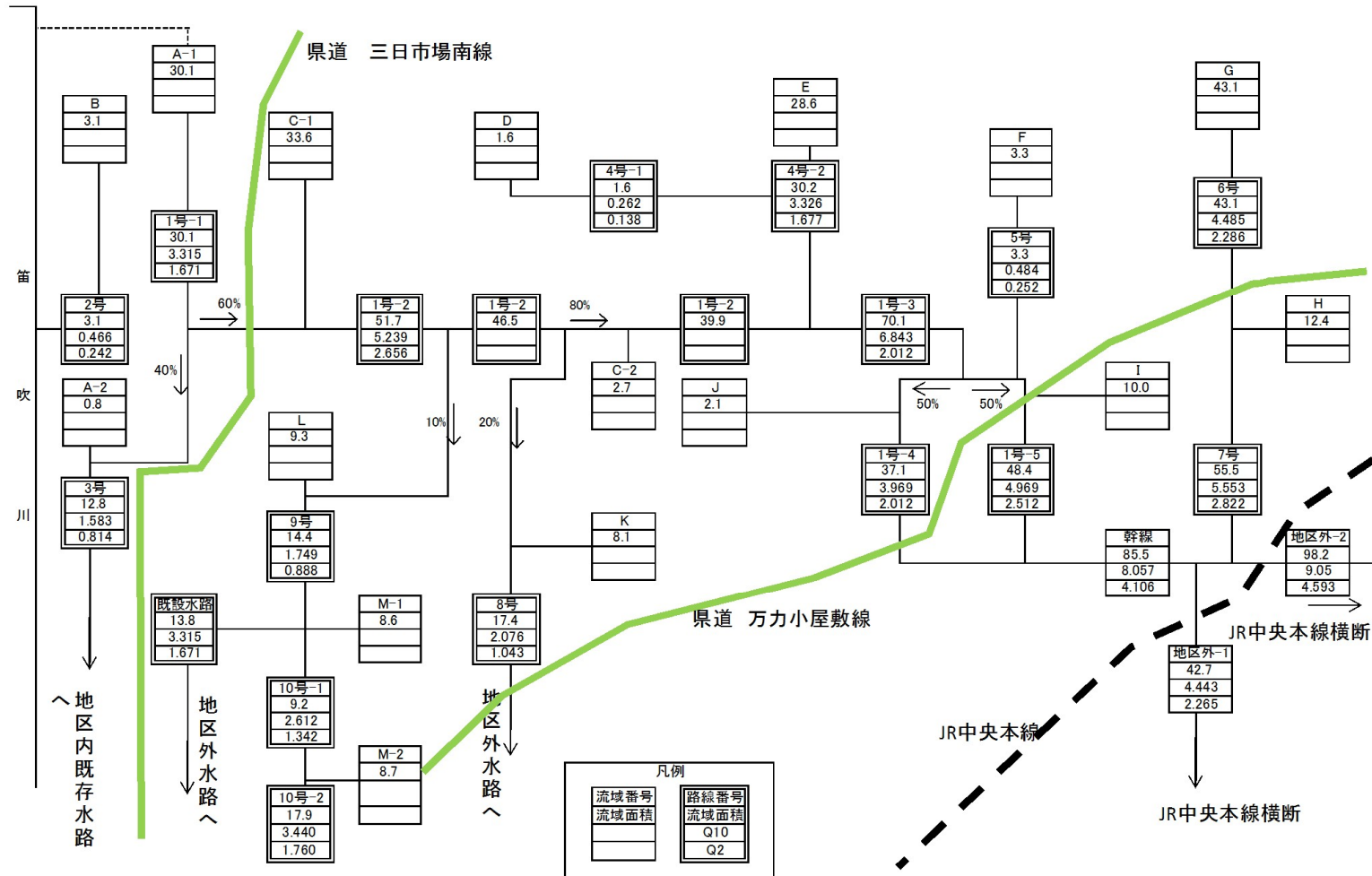
(イ) その他の被害状況 該当無し

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況 該当無し

2. 排水状況

(1) 排水系統

本地区の排水は、地区内の小排水路及び地区外水路へ排出される。



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行	現況排水能力 (m^3/s)	備考
			100ha以上		100～20ha		20ha以下						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
農業用排水施設	自然	{ 排水路 水門					10	67.4	10	67.4	—	6.84	
	機械	{ 排水路 水門及び排水機											
	計		—	—	—	—	10	67.4	10	67.4	—	6.84	
合計													

(イ) 改修を要する施設の一覧表

事業名	項目 施設名		箇所数	構造	規模	新設又は 更新年月日	改修を必要とする理由	備考
農業用排水施設	自然	{ 排水路 水門	10	土水路 空石積水路	L=4,409m	S30年代	断面不足による 溢水防止のための改修	受益面積64.7ha
	機械	{ 排水路 水門及び排水機						
	計		10		L=4,409m			
	合計							

(3) 排水に関する被害状況 該当無し

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量(mm)		たん水状況				乾湿状況(ha)						平均減産量 (t)	平均 維持管理費 (千円)	備考
					たん水深 (cm)	たん水時間 (hr)	たん水面積 (ha)	たん水量 (千m³)	田		畑		その他				
									乾	湿	乾	湿	乾	湿			
農業用排水施設	計		平均														
			基準年														
			平均														
			基準年														

3. 河川状況 該当なしにつき省略

第4節 道路概況

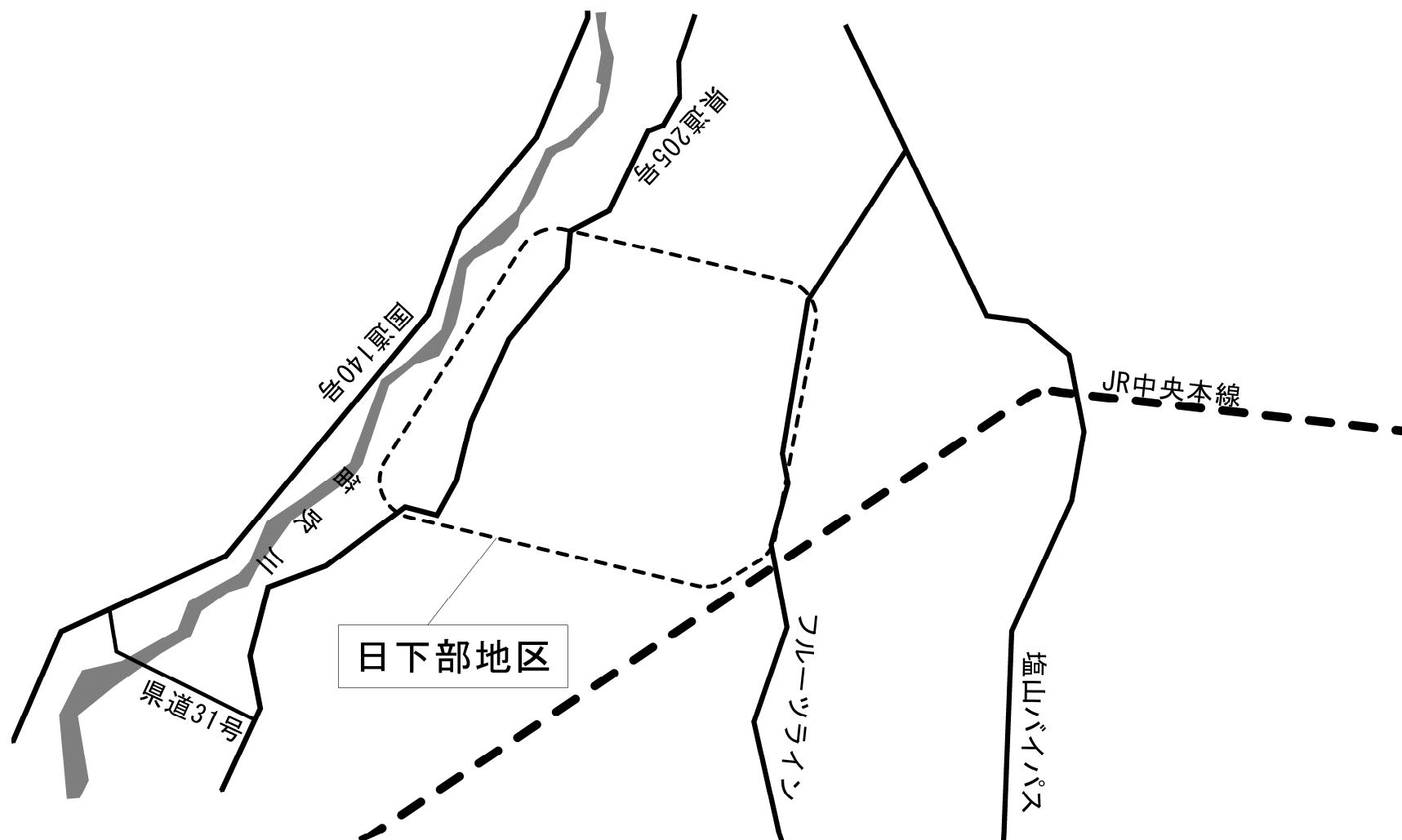
1. 道路概況

(1). 現況路線

路線名	事業主体	延長(m)	全幅(有効幅員)	舗装	計画との関連	備考
国道140号線	国土交通省	1151	9.5 (7.0)	A s	存続	
県道三日市場南線	山梨県	1550	7.0 (6.0)	A s	存続	
県道万力小屋敷線	山梨県	1024	7.0 (6.0)	A s	存続	
1級路線 0106	山梨市	442	7.0 (6.0)	A s	存続	
1級路線 0107	山梨市	213	7.0 (6.0)	A s	存続	
1級路線 0108	山梨市	1074	3.5 (3.0)	Co	存続	
1級路線 0109	山梨市	633	7.0 (6.0)	Co	存続	
2級路線 0204	山梨市	979	5.2 (4.5)	Co	存続	
2級路線 0209	山梨市	493	4.3 (4.0)	Co	存続	
農道 B004	山梨市	145	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B005	山梨市	33	3.5 (3.0)	Co	存続	
農道 B006	山梨市	193	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B007	山梨市	94	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B008	山梨市	66	2.5 (2.0)	未舗装	存続	
農道 B010	山梨市	50	3.5 (3.0)	Co	存続	
農道 B011	山梨市	346	2.5 (2.0)	Co	改修	
農道 B012	山梨市	67	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B013	山梨市	213	2.5 (2.0)	未舗装	改修	
農道 B014	山梨市	444	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B015	山梨市	297	2.5 (2.0)	Co	存続	
農道 B016	山梨市	284	2.5 (2.0)	未舗装	改修	
農道 B031	山梨市	164	2.5 (2.0)	未舗装	存続	
農道 B034	山梨市	131	2.5 (2.0)	Co	存続	

農道 B035	山梨市	20	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2050	山梨市	92	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2051	山梨市	310	2.5	(2.0)	Co	改修	
その他路線 2052	山梨市	411	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2053	山梨市	90	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2063	山梨市	320	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2064	山梨市	124	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2065	山梨市	90	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2073	山梨市	151	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2086	山梨市	131	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2087	山梨市	102	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2088	山梨市	85	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2091	山梨市	466	4.3	(4.0)	Co	存続	
その他路線 2092	山梨市	276	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2093	山梨市	281	4.7	(4.0)	Co	存続	
その他路線 2094	山梨市	158	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2095	山梨市	145	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2096	山梨市	293	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2097	山梨市	125	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2098	山梨市	127	3.5	(3.0)	Co	存続	
その他路線 2107	山梨市	158	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2108	山梨市	85	2.5	(2.0)	Co	存続	
その他路線 2109	山梨市	110	2.5	(2.0)	Co	存続	

主要道路模式図



第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項 目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気 [※] ガス 熱供給 水道業 (人)	運 輸 通信業 (人)	卸 売 小売業 飲食業 (人)	金融 保険業 (人)	不動 産業 (人)	サービ ス業 (人)	公 務 (人)	その他 (人)	備 考
山梨市	17,034	3,078	23	1	2	1,120	2,127	100	762	2,222	306	150	6,185	757	201	
比率(%)	(100.0)	18.1	0.1	—	0.0	6.6	12.5	0.6	4.5	13.0	1.8	0.9	36.3	4.4	1.2	

R2年国勢調査

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(第7表-2)

項 目 市町村名	農 家 総戸数 (戸)	経 営 耕 地 広 狭 別 農 家 数 (戸)								1 戸 当 り 平 均 農 用 地 面 積 (ha)					
		0.3ha 未満	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0ha 以上	例外規定の 適用を受け るもの	田	畑	樹園地	小計	山林	計
山梨市	1,640	275	364	689	222	54	23	13		0.108	0.250	0.680	0.630	0.000	0.630
計	1,640	275	364	689	222	54	23	13	—	—	—	—	—	—	—
比 率 (%)	100.0	16.8	22.2	42.0	13.5	3.3	1.4	0.8	—	—	—	—	—	—	—

2020農林業センサス

項 目 市町村名	耕地の分散状況		専兼業農家数（戸）				備 考
	1 戸 当たり 団地数	団地当 り面積 (ha)	専 業	兼 業		計	
				第 1 種	第 2 種		
山梨市	—	—	928	289	553	1,770	
計	—	—	928	289	553	1,770	
比率（%）	—	—	52	16	31		

2015農林業センサス

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-2)

市町村名	動力農機具							
	動力田植機		トラクター		コンバイン			
	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数
山梨市	36	32	915	837	36	33		
100戸当数量 (台・頭)	$(36 \div 32) \times 100 = 2$ 台		$(915 \div 837) \times 100 = 52$ 台		$(36 \div 33) \times 100 = 2$ 台			
利用戸数の割合 (%)	$(32 \div 1770) \times 100 = 2$		$(837 \div 1770) \times 100 = 47$		$(33 \div 1770) \times 100 = 2$			

2015農林業センサスより

市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		産卵鶏		
	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数	数量	戸数	
山梨市	頭	戸	頭	戸	頭	戸	頭	戸	
	—	—	—	—	—	—	—	—	
100戸当数量 (台・頭)	(0÷0)×100= 0頭		(0÷0)×100= 0頭		(0÷0)×100= 0頭		(0÷0)×100= 0頭		
利用戸数の割合 (%)	(0÷1770)×100= 0		(0÷1770)×100= 0		(0÷1770)×100= 0		(0÷1770)×100= 0		

*利用戸数の割合＝利用戸数／販売農家数（1187戸）

2020農林業センサスより

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名		山梨市		計		平 均		作 付 率 (%)	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)		1, 850		1, 850		－			
本 地 面 積 (ha)		1, 848		1, 848		－			
区 分		作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)		
作 物 名									
田	水稲	2	533			2	533	0. 1	農林業市町村別データ (国中版 H19. 6月)
	小 計	2				2	－	0. 1	
畑	だいこん	1	2, 265			1	2, 265	0. 1	
	ばれいしょ	－	－			－	－	－	
	キャベツ	－	－			－	－	－	
	その他	1				1	－	0. 1	
	小 計	2				2		0. 1	
樹園地	ぶどう	1, 251	1, 064			1, 251	1, 064	71. 9	
	もも	401	1, 074			401	1, 074	23. 0	
	すもも	23	733			23	733	1. 3	
	その他	62				62	－	3. 6	
	小 計	1, 737				1, 737		99. 8	
合 計		1, 741				1, 741		100. 0	
市町村別延作付率 (%)		94. 1							

5. 農業の動向

(第7表-5)

区分項目	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考
変化の状況 (C年を100とする指数)	種 別	B	A	地 目	B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A	農業振興地域指定 指 S45年3月 特定農山村 指 H5年6月 山村振興 指 S45年3月	山梨市
	総農家数	116	102	耕 地	134	122	水 稻	100	200	乳用牛	200	—	農用トラクター	144	109		
	専業農家数	150	158	田	200	140	いも類	100	—	肉用牛	—	—	動 力 防除機	—	—		
	第 1 種 兼業農家数	117	86	畑	375	331	豆類	—	—	豚	—	—	動 力 田植機	143	129		
	第 2 種 兼業農家数	116	89	樹園地	129	118	野菜類	200	67	採卵鶏	—	—	コンバイン	167	300		
	農 業 従事者数	120	69	草地	—	—	果樹	127	69								
変化の理由	農業従事者の高齢化及び後継者の農業離れにより総農家、農業従事者は減少しているが、専業化は進んでいる。			農地転用による減少。			耕地面積の減少、営農形態の変化及び農業人口の減少に伴う減少。			農業従事者の高齢化及び後継者の農業離れ。			農家数の減少と、労働力不足による農業用機械の導入。				

A:2015年, B:2010年, C:2005年 (資料: 農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

本地域は、甲府盆地の東部、峡東地域の北部、山梨市南東部及び甲州市南西部の日下部地区に位置する、ももとぶどうを中心とした果樹園地帯である。

本地区は、J R 山梨市駅の北西約3 km、中央高速道一宮御坂 I C の北9 kmに位置し、西側を笛吹川に接した平坦地となっている。また地区の西側を南北に県道三日市場南線、南側を東西に県道万力・小屋敷線が通っている。また、山梨県と埼玉県を結ぶ主要道路である国道140号が地区近傍を通り、中央自動車道や主要都市部との接続も良い条件にある。

本地域は、平坦で肥沃な土地で寒暑の差が著しい気候である。年平均気温12.0℃、年間平均降水量は1,300mm程度である。本地域は、果樹栽培を中心とした桃・ぶどうに代表される樹園地が広がり、独特の田園景観を形づくっている。また、近年は柿の生産もさかんになっている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区はぶどう、もも、おうとうを中心とした果樹生産地域であるが、急傾斜地に位置するほ場は小規模かつ未整備で営農、維持管理に多大な労力を要している。

この状況を打破し効率的な営農を行うため、区画整理により作物生産基盤整備を行うと共に、農道整備により通作・生産物輸送条件を整備し、さらに、用排水路整備を行うことにより溢水による作物・資産等の被害を軽減する。

これらの事業により、担い手への農地の集積を行い農地の有効活用を図ると共に、生産性の向上と農業経営の安定化により、地域農業の維持・向上を図るものである

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	農地整備事業（畑地帯担い手支援型）（ha）						備 考
	水 田	普通畑	果樹園			計	
農業用排水施設	—	—	64.7			64.7	
農道	—	—	52.3			52.3	
区画整理	—	—	34.3			34.3	
計	—	—	71.4			71.4	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本地区は、山梨市東南部の笛吹川左岸に位置し、ぶどう、ももを中心とした果樹生産地域である。地区内の受益農地は未整備かつ小規模で、生産基盤整備が実施されていないため農道・水路の未整備路線もまだ多く、営農に多大な労力を要している。近年、農業従事者の高齢化、後継者不足により耕作放棄地も目立ってきている状況にある。

よって、効率的な営農を行うための条件整備が急務であり、本事業により生産基盤の整備と農地の集積を行い限られた農地の有効活用を図る、それによって生産性の向上と農業経営の安定、地域農業の維持・向上を図り、担い手農家へ優良農地の集積を行い、機械化農業の推進や流通システムの合理化により、観光と農業の連携を図っていく。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	小計 (ha)	道水路 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
農業用排水施設	現況	—	—	—	64.7	64.7	—	—	64.7	
	計画	—	—	—	64.7	64.7	—	—	64.7	
農道	現況	—	—	—	52.3	52.3	—	—	52.3	
	計画	—	—	—	52.3	52.3	—	—	52.3	
区画整理	現況	—	—	—	34.3	34.3	—	—	34.3	
	計画	—	—	—	34.3	34.3	—	—	34.3	
合計	現況	—	—	—	71.4	71.4	—	—	71.4	重複除く
	計画	—	—	—	71.4	71.4	—	—	71.4	〃

3. 作付方式

(第9表-2)

地目	項目	作付体系	年月旬 面積	1年目												2年目																																			
				1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
樹園地	現況	もも					▲		◎	◎						×		×													▲	▲	◎	◎			×		×						△		△				
		ぶどう						▲		▲			◎	◎			×		×			×		△	△									◎	◎		×		×		×		△	△							
		かき							▲		▲			◎		◎			×		×										▲	▲		◎	◎			×		×		×									
	計画	もも						▲		◎	◎					×		×													▲	▲	◎	◎			×		×				△		△						
		ぶどう							▲		▲			◎	◎			×		×			×		△	△								◎	◎		×		×		×		△	△							
		かき								▲		▲			◎		◎			×		×									▲	▲		◎	◎			×		×		×									

注) 発芽期は ▲---▲ , 開花期は ◎---◎ , 収穫は ×---× , 移植(定植)は △---△

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目		作物名 (作型)	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左増減の内訳 (t)		備考
	地目名			現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 収獲量増加	
農地耕作条件改善事業(区画整理)	田	表作									—	—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	畑	表作									—	—	—	—	—	—	
		小計		—	—	—	—	—				—	—	—	—	—	
	樹園地	通年	もも	32.4	32.4	—	45.4	45.4	1,075	1,075	—	348.30	348.30	—	—	—	
			ぶどう	27.5	27.5		38.5	38.5	1,065	1,065	—	292.88	292.88	—	—	—	
			柿	11.5	11.5		16.1	16.1	1,126	1,126	—	129.49	129.49	—	—	—	
		小計		71.4	71.4	—	100.0	100.0				770.67	770.67	—	—	—	
	計			71.4	71.4	—	100.0	100.0				770.67	770.67	—	—	—	
	田	表作										—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	畑	表作										—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	樹園地	表作										—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	計											—	—	—	—	—	
	田	表作	水稻									—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	普通畑	表作										—	—	—	—	—	
		表作										—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	樹園地	表作										—	—	—	—	—	
		小計										—	—	—	—	—	
	計											—	—	—	—	—	
	合計			71.4	71.4	—	100.0	100.0				770.67	770.67	—	—	—	

5. 労働改善計画

事業名	項目	作付名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量 (hr/10a)				備 考
	土地利用区分			区 分	現 況	計 画	増 減	
県営経営体育成 基盤整備事業 (区画整理)	樹園地	もも	32.4	人 力	469.4	391.2	△ 78.2	
				機械力	287.7	227.7	△ 60.0	
		ぶどう	27.5	人 力	396.1	330.1	△ 66.0	
				機械力	6.8	5.6	△ 1.2	
		かき	11.5	人 力	244.5	224.3	△ 20.2	
				機械力	3.7	3.4	△ 0.3	
合 計			71.4					

6. 級地別土地利用区分

該当なしにつき省略

7. 土地配分計画

該当なしにつき省略

第3節 用水計画

該当なしにつき省略

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

降雨強度式 $\frac{50.303}{t^{3/5} + 0.106}$ (1/10確率) 「山梨県各地域の確率降雨強度式(甲府)」による。

2. 計画排水方式

a) 単位排水量の決定

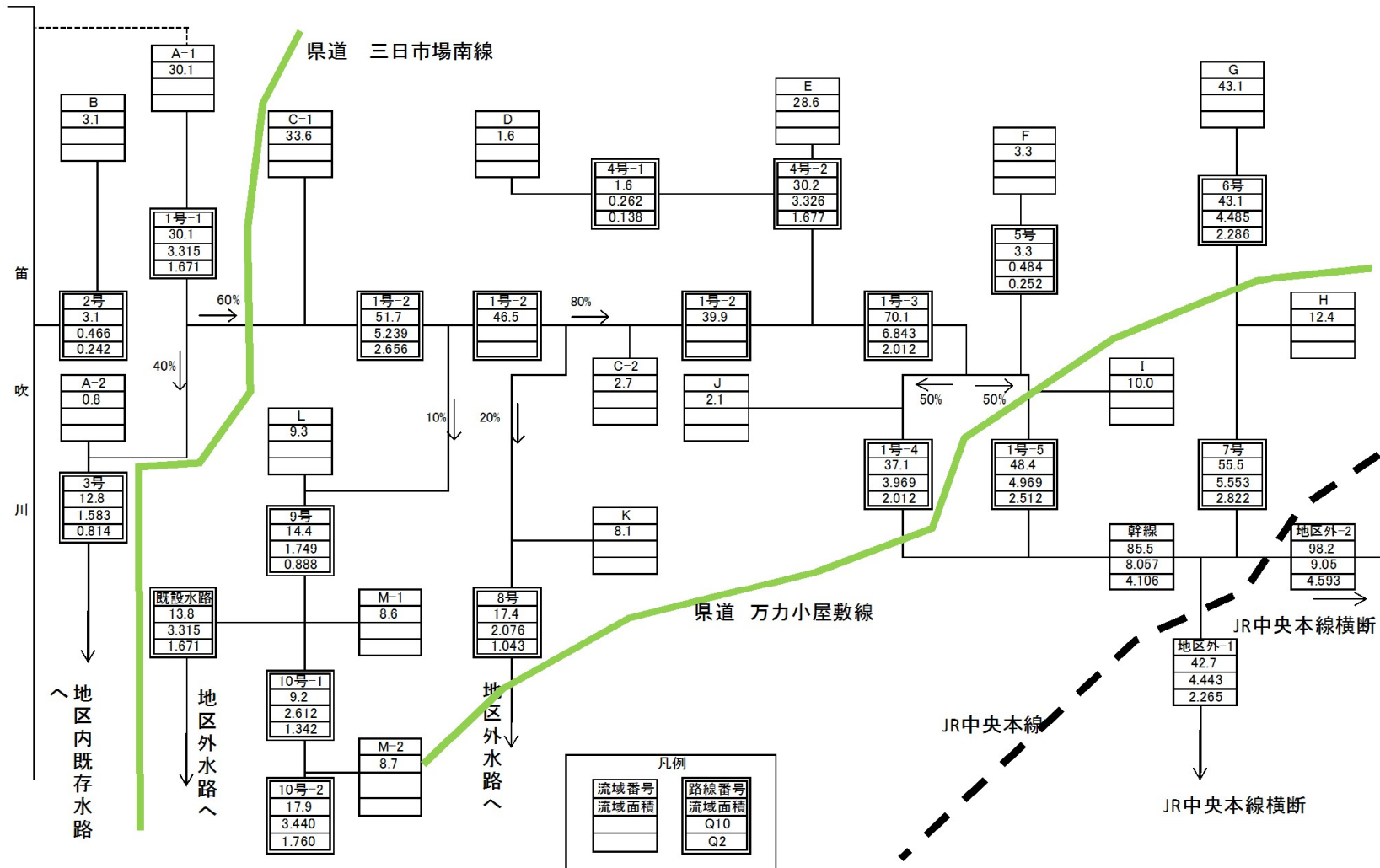
施 設	区 分	算定方式	基準雨量	流出率	(1/年確率)	雨量強度	算出基準	単位排出量	
用排水路 1号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 2号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	60%	1/10年確率	102.9mm/hr	$102.9 \times 0.60 \times 10 / 3600$	0.171	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 3号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	59%	1/10年確率	90.3mm/hr	$90.3 \times 0.59 \times 10 / 3600$	0.147	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 4号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 5号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 6号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 7号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 8号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 9号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	76%	1/10年確率	49.0mm/hr	$49.0 \times 0.76 \times 10 / 3600$	0.103	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha
用排水路 10号	小排水路 (山地等)	合理式	mm/日	73%	1/10年確率	58.1mm/hr	$50.1 \times 0.73 \times 10 / 3600$	0.118	m ³ /s/ha
			mm/日		1/2年確率	—mm/hr	—	—	m ³ /s/ha

- b) 河川洪水位の決定
該当ないので記載を省略
- c) 河川洪水深の決定
該当ないので記載を省略
- d) 地下排水計画に対する計画諸元の決定
該当ないので記載を省略

3. 計画排水系統（計画排水系統図参照）

本計画地域の排水は、既設の排水路に自然排水される。

計画排水系統図



4. 計画排水量

項目 排水系統名	受益面積(ha)		流域面積(km ²)		基準雨量 (mm/hr)	降雨による 直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量(m ³ /s)		単位排水量 (m3/s)		備 考
	農地整備	計	山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地	山地	平地	
用排水路1号	12.7		—	2.374	60.6	—	11.00	—	—	—	—	—	11.00	
用排水路2号	0.9		—	0.031	82.8	—	15.00	—	—	—	—	—	15.00	
用排水路3号	0.2		—	0.128	68.1	—	12.40	—	—	—	—	—	12.40	
用排水路4号	7.1		—	0.318	90.1	—	16.40	—	—	—	—	—	16.40	
用排水路5号	3.3		—	0.033	80.7	—	14.70	—	—	—	—	—	14.70	
用排水路6号	6.9		—	0.431	57.3	—	10.40					—	10.40	
用排水路7号	8.8		—	0.555	55.1	—	10.00	—	—	—	—	—	10.00	
用排水路8号	2.5		—	0.174	65.7	—	11.90	—	—	—	—	—	11.90	
用排水路9号	9.3		—	0.144	66.9	—	12.10	—	—	—	—	—	12.10	
用排水路10号	13.0		—	0.271	70.7	—	12.80	—	—	—	—	—	12.80	
計	64.7			4.459						4.82				

5. 排水対策

(1) 排水水門 該当なしにつき省略

(2) 排水機 該当なしにつき省略

(3) 排水路

項 目 排水系統名	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)			計画排水量 (m ³ /s)	延長(km)	構 造	排水本川			備 考
		事業名						名称	計画洪水 量 (m3/s)	計画洪水 位 (m)	
		畑総 (農業用排水施設)		計							
用排水路1号	2.374	12.7		12.70	6.843	1,365	鉄筋コンクリート排水フリューム 1500×1300				
用排水路2号	0.031	0.9		0.9	0.466	193	排水路用開渠 600×600				
用排水路3号	0.128	0.2		0.2	1.583	112	鉄筋コンクリート排水フリューム 1500×800				
用排水路4号	0.318	7.1		7.1	3.326	631	鉄筋コンクリート排水フリューム 1200×1200				
用排水路5号	0.033	3.3		3.3	0.484	98	鉄筋コンクリート排水フリューム 1000×1000				
用排水路6号	0.431	6.9		6.9	4.485	510	鉄筋コンクリート排水フリューム 1300×1300				
用排水路7号	0.555	8.8		8.8	5.553	413	鉄筋コンクリート排水フリューム 1500×1400				
用排水路8号	0.174	2.5		2.5	2.076	267	排水路用開渠 800×900				
用排水路9号	0.144	9.3		9.3	1.749	462	鉄筋コンクリート排水フリューム 1000×900				
用排水路10号	0.271	13.0		13.0	2.100	358	鉄筋コンクリート排水フリューム 1200×1200				
計	4.459	64.7		64.7		4,409					

(4) その他 該当ないので記載を省略

6. 湛水検討

該当なしにつき省略

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

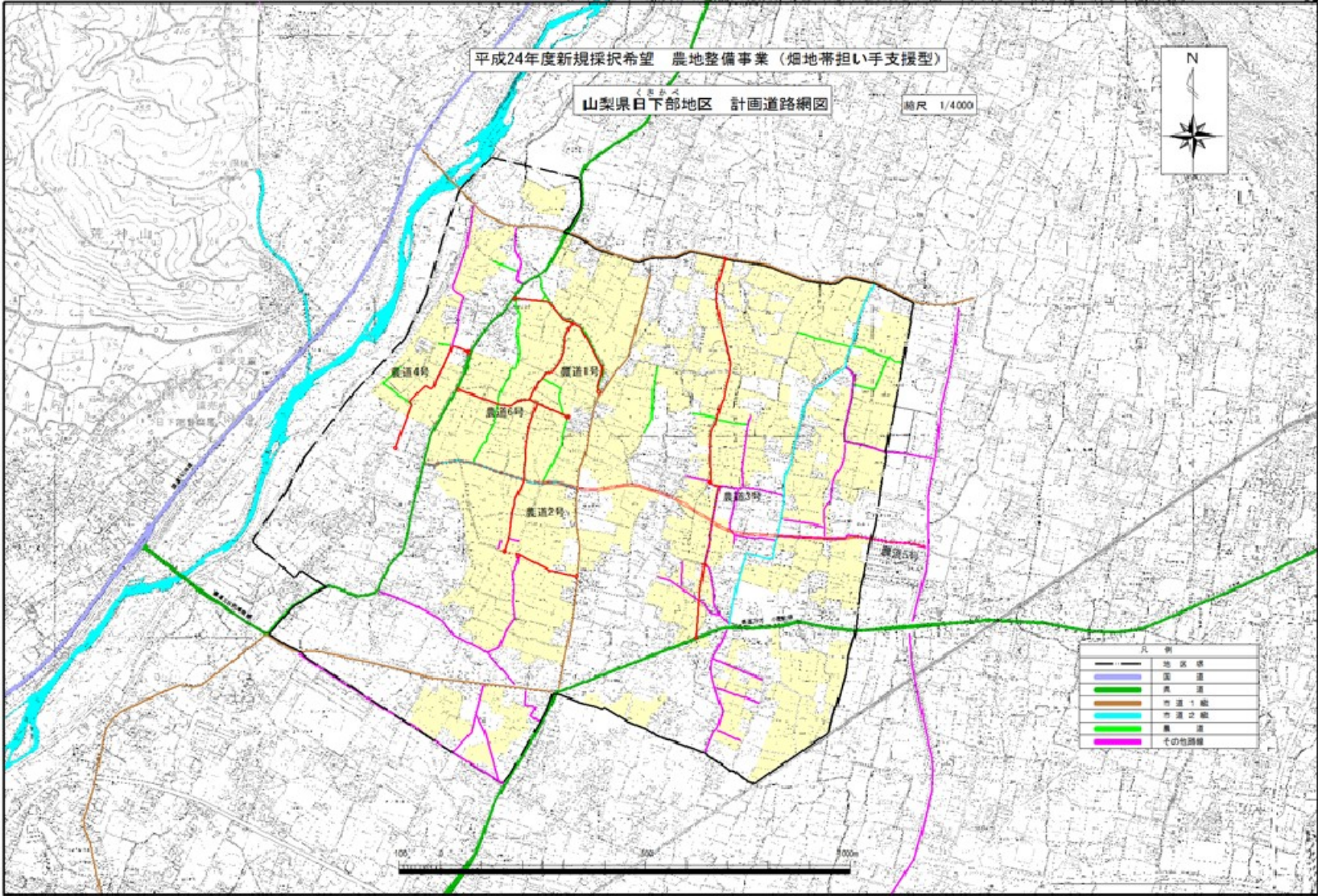
(1) 道路

(第12表)

路線名	項 目	全幅 (有効) (m)	×延長 (m)	構 造	既 設 道 路 と の 関 係	備 考
農道1号		4.0	(3.5) × 354	アスファルト舗装	県道三日市場南線及び市道0108に接続	
農道2号		4.0	(3.5) × 660	アスファルト舗装	農道1号及び市道0108に接続	
農道3号		4.0	(3.5) × 779	アスファルト舗装	農道B305及び県道休息小屋敷線に接続	
農道4号		4.0	(3.5) × 360	アスファルト舗装	県道三日市場南線及びその他2050に接続	
農道5号		5.0	(4.5) × 642	アスファルト舗装	その他2223及び市道0209に接続	
農道6号		4.0	(3.5) × 292	アスファルト舗装	県道三日市場南線及びその他2057に接続	

(2) 索道 該当なしにつき省略

2. 路線配置図



第6節 農用地造成計画

該当なしにつき省略

第7節 洪水調節計画

該当なしにつき省略

第8節 干拓計画

該当なしにつき省略

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

区画整理計画面積は34.3ha(区画整理後 受益面積34.3ha)である。

(1) 区画の形状

長辺×短辺(m)	区画面積(ha)	全体面積(ha)	割合(%)	田差	備 考
50×20	0.1 (平均)	34.3	100	—	
計		34.3			

(2) 表土扱い

面積(ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土 量 (千m3)	備 考
8.5	要：表土扱いが不要とされる場合以外は原則として表土扱いを行う。 (表土扱いとしない場合) ・作土の肥沃度が低いために作土と下層土を混合することによりかえって地力増進になる場合。 ・切土、盛土深が5cm以内の平坦な地区の場合。 本地区は上記表土扱いを必要としない場合に該当しない。	30.0	25.5	

(3) 末端道水路配置図（別添計画平面図参照）

本地区は地形勾配が約2%と樹園地としては比較的緩やかな地形状態にある。また、1区画の耕地が小さくかつ不整形であることから、防除作業や収穫作業を効率的に行えるよう畦畔の撤去・換地など最小限の造成で農地の集積を図る。

ほ場内道路は、舗装を行い（幅4.0m）を現況道路路線（整備・未整備含む）をベースとした路線計画とする。舗装種別はアスファルト舗装とする。

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

該当なしにつき省略

(2) 心土破碎

該当なしにつき省略

3. 客土

該当なしにつき省略

4. 農地保全

該当なしにつき省略

第10節 老朽ため池改修計画

該当なしにつき省略

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

該当なしにつき省略

第2節 排水施設

1 排水水門 該当なしにつき省略

2 排水機 該当なしにつき省略

3 排水路

水路名	項目		受益面積 (ha)	排水量 (m3/s)	延長 (m)			構 造	勾配	主要 構造物	備考
	事業名				総延長	開渠	その他				
	農業用 用排水施設	計									
用排水路1号	12.7	12.7	6.843	1,365	1,365		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路2号	0.9	0.9	0.466	193	193		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路3号	0.2	0.2	1.583	112	112		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路4号	7.1	7.1	3.326	631	631		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路5号	3.3	3.3	0.484	98	98		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路6号	6.9	6.9	4.485	510	510		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路7号	8.8	8.8	5.553	413	413		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路8号	2.5	2.5	2.076	267	267		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路9号	9.3	9.3	1.749	462	462		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
用排水路10号	13.0	13.0	2.100	358	358		コンクリート二次製品B1000×H1000	1/100			
計	64.7	64.7		4,409	4,409	0					

4 その他排水施設 該当なしにつき省略

第3節 道路及び索道

1. 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表)

区 分 \ 項 目	路 線 名	幅 (有効) × 延長 (m)	構 造	付 帯 構 造 物			最急勾配	同左の 延 長	最 小 曲線半径	備 考
				名 称	構 造	数 量				
農道	農道1号	4.0 (3.5) × 354	アスファルト舗装	-			-	-	-	
農道	農道2号	4.0 (3.5) × 660	アスファルト舗装	-			-	-	-	
農道	農道3号	4.0 (3.5) × 779	アスファルト舗装	-			-	-	-	
農道	農道4号	4.0 (3.5) × 360	アスファルト舗装	-			-	-	-	
農道	農道5号	5.0 (4.5) × 642	アスファルト舗装	-			-	-	-	
農道	農道6号	4.0 (3.5) × 292	アスファルト舗装							
計		3,087								

(2) 道路主要構造物 該当なしにつき省略

2. 索 道 該当なしにつき省略

第4節 農用地造成

該当なしにつき省略

第5節 洪水調節施設

該当なしにつき省略

第6節 干拓施設

該当なしにつき省略

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量 (m3)	面積 (ha)	土量 (m3)	
1 工区	22.8	50×20	—			
2 工区	4.5	50×20	—			
3 工区	4.0	50×20	—			
4 工区	3.0	50×20	—			
計	34.3			1.3	3,250	

2 暗渠排水 該当なしにつき省略

3 客土 該当なしにつき省略

4 除礫 該当なしにつき省略

5 農地保全 該当なしにつき省略

第8節 老朽ため池改修施設

該当なしにつき省略

第 6 章 附帯工事計画

該当なしにつき省略

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

着	手	平成24年度
完	了	令和 9年度

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的考え方

本地区の換地計画は、農地の改良、開発、保全及び農地の集団化を目的とすると共に、用途、地積、等位その他の自然条件を総合的に勘案し、従前の土地に照応するように定める物とする。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
区画整理①－1	山梨市 七日市場	3.5
区画整理①－2	山梨市 七日市場	0.0
区画整理①－3	山梨市 七日市場	5.8
区画整理①－4	山梨市 七日市場	5.4
区画整理①－5	山梨市 七日市場	4.1
区画整理①－6	山梨市 七日市場	4.0
区画整理②	山梨市 下井尻	4.5
区画整理③	山梨市 下井尻	4.0
区画整理④	山梨市 下井尻	3.0
計		34.3

2 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
区画整理①	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月以内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申請があった場合には、その申出のあった地積とする。
区画整理②	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月以内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申請があった場合には、その申出のあった地積とする。
区画整理③	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月以内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申請があった場合には、その申出のあった地積とする。
区画整理④	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月以内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申請があった場合には、その申出のあった地積とする。

2 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表－3)

換地区名		用途 (取得 予定者) 前後	非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地										機能交換に係わる土地				一般 国公有地	総 合 計
			田	畑	山林・ 原野	その他	通常事業施工地域 に含める土地令第 1条の9（ ）書 き			計	本事業によって生 ずる土地改良施設 用地			合 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地					国	県	市 町 村 等	計		
							良土 施設改	他 その	計		区 改良	他 その	小計		山林	原 野	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 用 地	公 共 ・ 公 共 施 設 用 地	宅 地 等	計						
区画整理①	従前の土地		22.8						22.8				22.8			0.0										0.0		22.8	
	換 地		22.8						22.8				22.8			0.0										0.0		22.8	
区画整理②	従前の土地		4.5						4.5				4.5			0.0										0.0		4.5	
	換 地		4.5						4.5				4.5			0.0										0.0		4.5	
区画整理③	従前の土地		4.0						4.0				4.0			0.0										0.0		4.0	
	換 地		4.0						4.0				4.0			0.0										0.0		4.0	
区画整理④	従前の土地		3.0						3.0				3.0			0.0										0.0		3.0	
	換 地		3.0						3.0				3.0			0.0										0.0		3.0	
計	従前の土地	0.0	34.3						34.3				34.3															34.3	
	換 地	0.0	34.3						34.3				34.3															34.3	

3 農用地集団化の方針

(第25表－4)

区分 換地区分	地帯別、グループ別団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 の 選 択 方 法	一戸当りの 目標団地数	区画畦畔の 取り扱い
区画整理①	作物別集団化	従前地の密集した位置を中心に換地する。また、密集した位置がいくつかに分かれているときは、2ヶ所を限度として換地する。また、位置の決定に当たっては、担い手農家の支援を考慮した換地をする。	1	区域界については配分面積に応じて移動する。
区画整理②	作物別集団化	従前地の密集した位置を中心に換地する。また、密集した位置がいくつかに分かれているときは、2ヶ所を限度として換地する。また、位置の決定に当たっては、担い手農家の支援を考慮した換地をする。	1	区域界については配分面積に応じて移動する。
区画整理③	作物別集団化	従前地の密集した位置を中心に換地する。また、密集した位置がいくつかに分かれているときは、2ヶ所を限度として換地する。また、位置の決定に当たっては、担い手農家の支援を考慮した換地をする。	1	区域界については配分面積に応じて移動する。
区画整理④	作物別集団化	従前地の密集した位置を中心に換地する。また、密集した位置がいくつかに分かれているときは、2ヶ所を限度として換地する。また、位置の決定に当たっては、担い手農家の支援を考慮した換地をする。	1	区域界については配分面積に応じて移動する。

4 非農用地の換地方法

(第25表-5)

区分 換地区分	用 途	非農用地区域の 位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

項目別配点方式 標準点を決めて点数制により通作距離、搬入の良否、圃場区画の広狭、形状の良否等について採点評価の方法により評価委員が評価する。

2. 清算の方法 増価額清算方式（比例地積清算）による。

算定式

通常の換地に係る清算金の額 = 換地の評定価額 - 換地交付基準額

換地の評定価額 > 換地交付基準額のときは徴収額（事業主体が土地の権利者から徴収する清算金の額）

換地の評定価額 < 換地交付基準額のときは支払額（事業主体から土地の権利者へ支払う清算金の額）

換地交付基準額 = (換地の価額の総額 - 従前の土地の価額の総額) × $\frac{\text{当該従前の土地の地積}}{\text{(従前の土地の総地積 - 特定用途用地地積)}}$ + 当該従前の土地の価額

特定用途用地換地に係る清算金の額 = 換地の評定価額 - 従前の評定価額

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表－6)

区分 換地区分	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の認可 決定予定年度	換地処分予定年度	備 考
区画整理①	平成30年度～令和8年度 (予定)	平成30年度～令和8年度 (予定)	令和元年度～令和10年度 (予定)	
区画整理②	令和8年度 (予定)	令和9年度 (予定)	令和11年度 (予定)	
区画整理③	令和9年度 (予定)	令和9年度 (予定)	令和11年度 (予定)	
区画整理④	令和9年度 (予定)	令和9年度 (予定)	令和11年度 (予定)	

第6節 換地処分の時期に関する特則

区画形状に係わる工事が全部完了し、工事後の土地について確定測量が行われた後においては、土地改良法第89条の2第10項で準用する第54条第2項ただし書きにより換地処分をすることができるものとする。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分	事業名	事業量	事業費（千円）		備考
純工事費	農業用排水路		670,213		
	農道整備		413,304		
	区画整理		932,391		
測量試験費	測量、実施設計費等		340,449		
文化財調査費			109,840		
用地買収補償費			365,054		
換地費			80,749		
小計			2,912,000		
地方事務費			291,000		
計			3,203,000		

第11章 効 用

(第27表)

事業名	項 目 区 分	当初計画		変更計画		備 考
		年増加見込効果額	年増加見込所得額	年増加見込効果額	年増加見込所得額	
中山間地域総合整備事業	食料の安定供給の確保に関する効果	91,224	181,400	173,148	175,732	作物生産・品質向上・営農経費・維持管理・走行経費
	農業の持続的発展に関する効果	-	-	-	-	
	農村の振興に関する効果	-	-	-	-	
	多面的機能の発展に関する効果	5,046	-	10,551	-	国産農産物安定
	そ の 他 効 果	-	-	-	-	
	計	96,270	181,400	183,699	175,732	
	総 便 益 費	2,985,544		6,697,245		総便益額（現在価値化）
	総 費 用 （ 現 在 価 値 化 ）	2,541,837		4,710,011		
	総 費 用 総 便 益 比	1.17		1.42		

第12章 関 連 す る 事 業

該当なしにつき省略

第13章 現況・計画図面

1. 計画一般図
2. 標準断面図

別添のとおり
〃